

令和6年度

保谷小学校4年生

地域とともにある学校づくり

コミュニティ・スクールの充実

西東京ふるさと探究学習

単元名：「ふだんのくらしをしあわせに」
（活動名）

ねらい：

「ふだんのくらしをしあわせに」を合い言葉に、障がいのある人や高齢者と関わる活動を通して、現状で困っていることや周りの人々にしてほしいことなど、その思いや願いに気付いたり、疑似体験をすることによって自分たちの想像以上の苦労があることに気付いたりする。さらに、障がいのある人や高齢者を取り巻く問題を自分の問題としてとらえ、福祉について考えることができるようにする。



【車いす体験・高齢者疑似体験】
・西東京ボランティア・市民活動センターから車いすと高齢者疑似体験セットを借りました。
体育館にマットやコーンを置き、段差や坂道、でこぼこ道などを想定しました。サポートする児童が乗っている児童にやさしく声をかけながら車いすを押していました。

【視覚障がい者とアイメイトの講演】

・視覚障がいのある方から普段の生活の様子やアイメイト（盲導犬）の話などを聞きました。アイメイトによるデモンストレーションや視覚障がいを助ける道具などの紹介をしてもらいました。

【高齢者施設訪問】

ゲストティーチャーによる講演や体験活動による学びを通して、自分たちにできることを考えたところ、高齢者の方に楽しい時間を過ごしてもらいたいという意見が子どもたちから出ました。高齢者施設を訪問し、みんなで考えた遊びや出し物の企画で一緒に楽しい時間を過ごすことができました。



まとめ

高齢者施設の訪問では、たくさん的高齢者の方に喜んでいただき、子どもたちは、さらに楽しめる企画を考えて、もう一度訪問したいという意欲を高めました。今後は、前回の活動の振り返りをもとに、再訪問に向けて計画を進めています。